

# しきしまを愛する人と共に

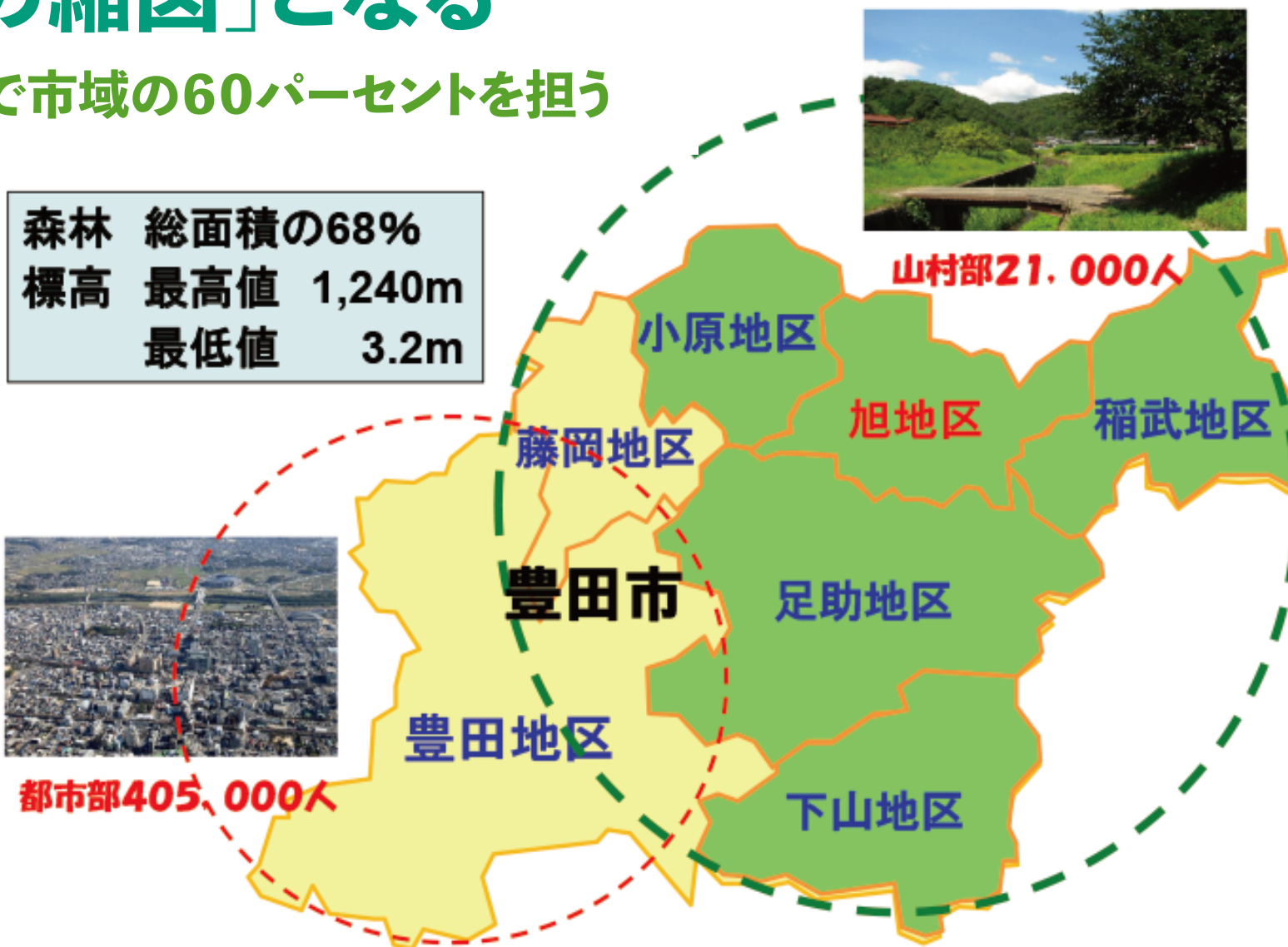
## 住民自治から関係自治へ



愛知県豊田市敷島地区

# 2005年合併、都市が山村が共存する 「日本の縮図」となる

5%の人口で市域の60パーセントを担う



# 敷島自治区の概要

## ■自治区の地勢

豊田市の中山間地域に位置

面積: 21.7km<sup>2</sup>

標高: 約180m～530m

## ■自治区の人口 (R6.4.1)

人口: 880人(住民基本台帳)

世帯数: 319世帯(自治区調べ)

## ■集落数

9集落(町内会)

## ■公共施設

旭中学校

敷島小学校

杉本こども園

杉本郵便局

杉本駐在所



# 直ぐに来る ムラの消滅

10年前のムラ～10年後のムラ

人の空洞化

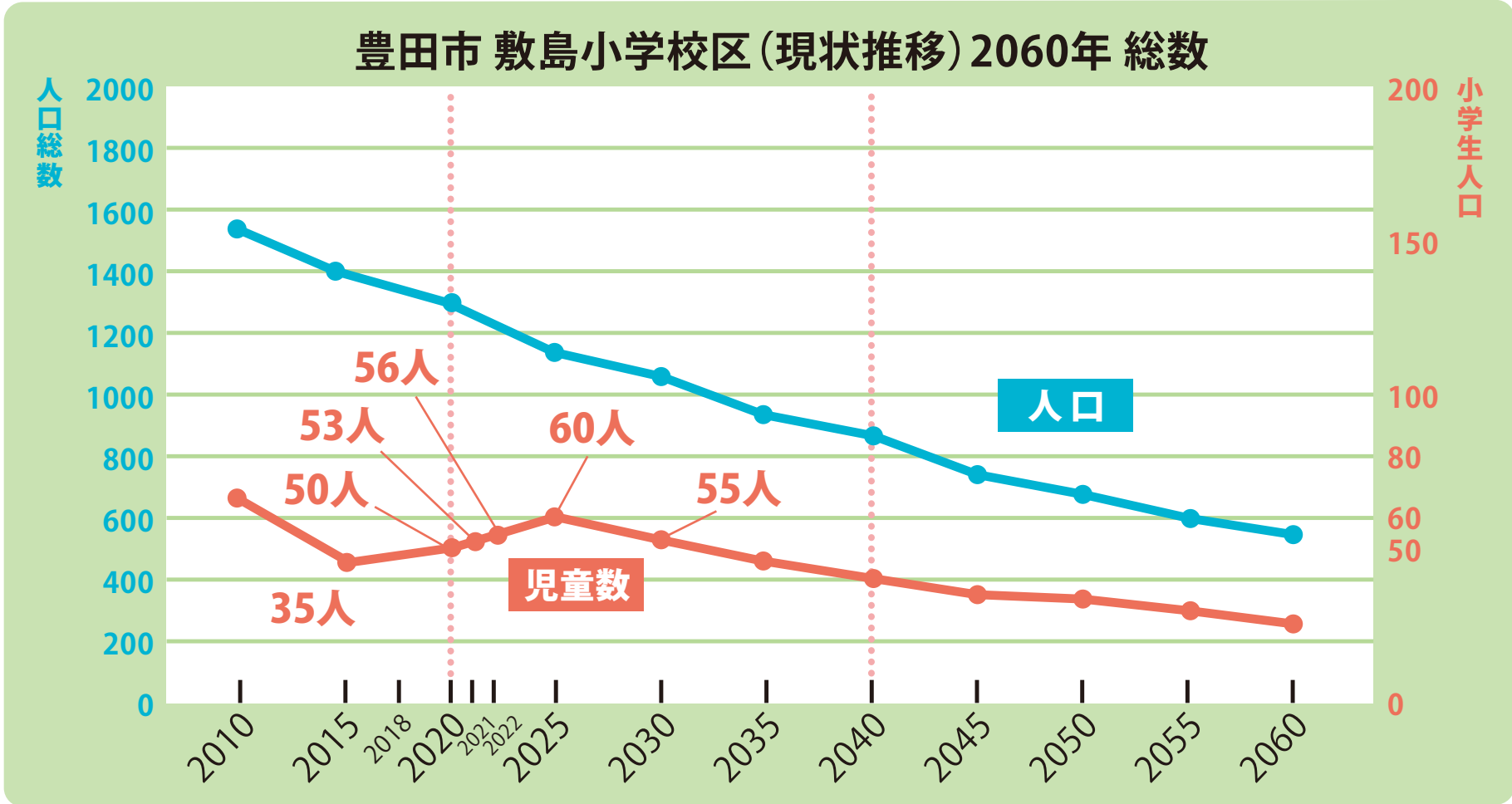
土地の空洞化

ムラの空洞化

心の空洞化 (何をやってもダメだ)

# 敷島小学校区の人口・児童数（現状推移）

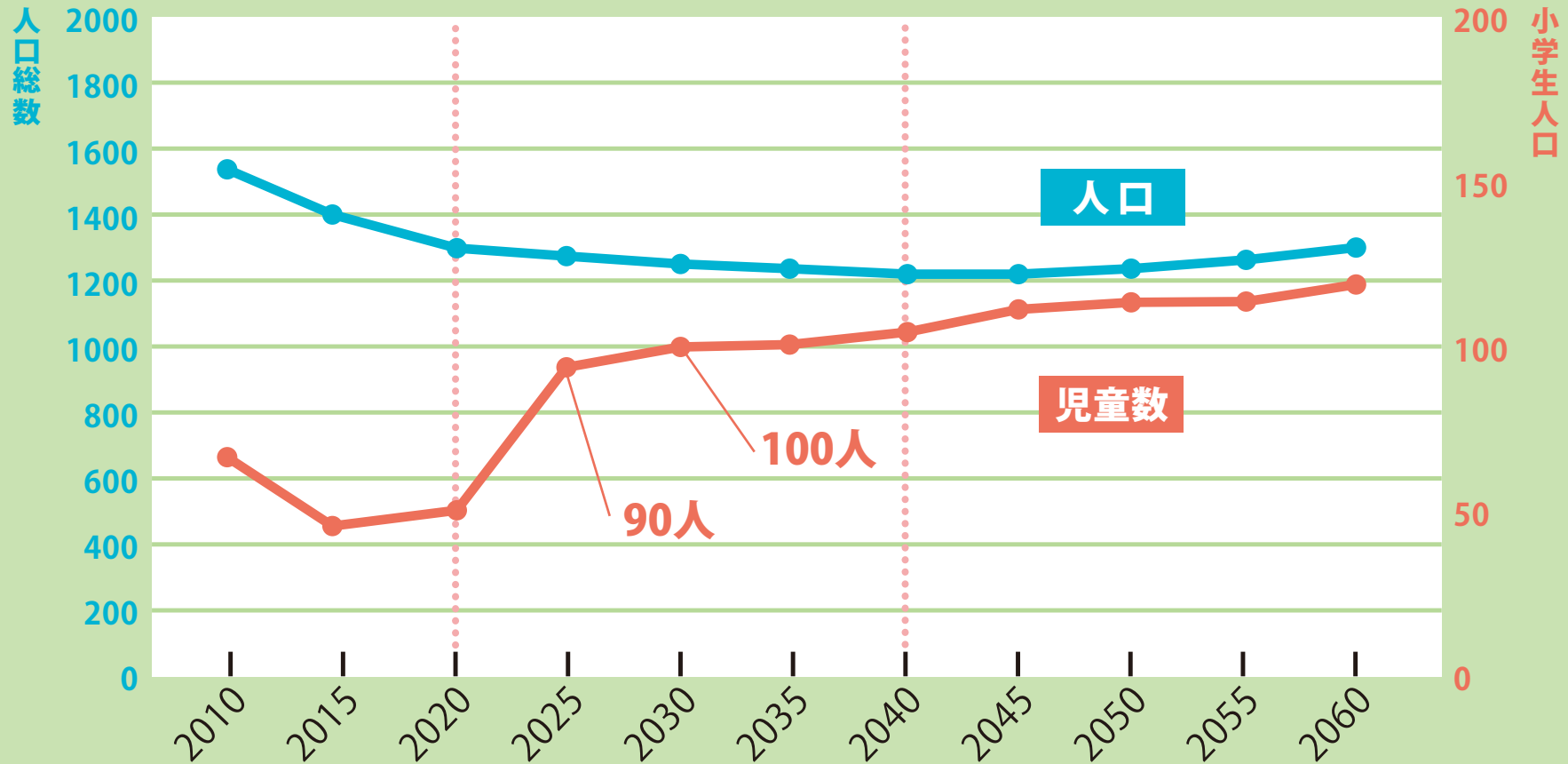
何もしなくても2025年までは**児童数が増える**



# 敷島小学校区の人口・児童数（移住モデル）

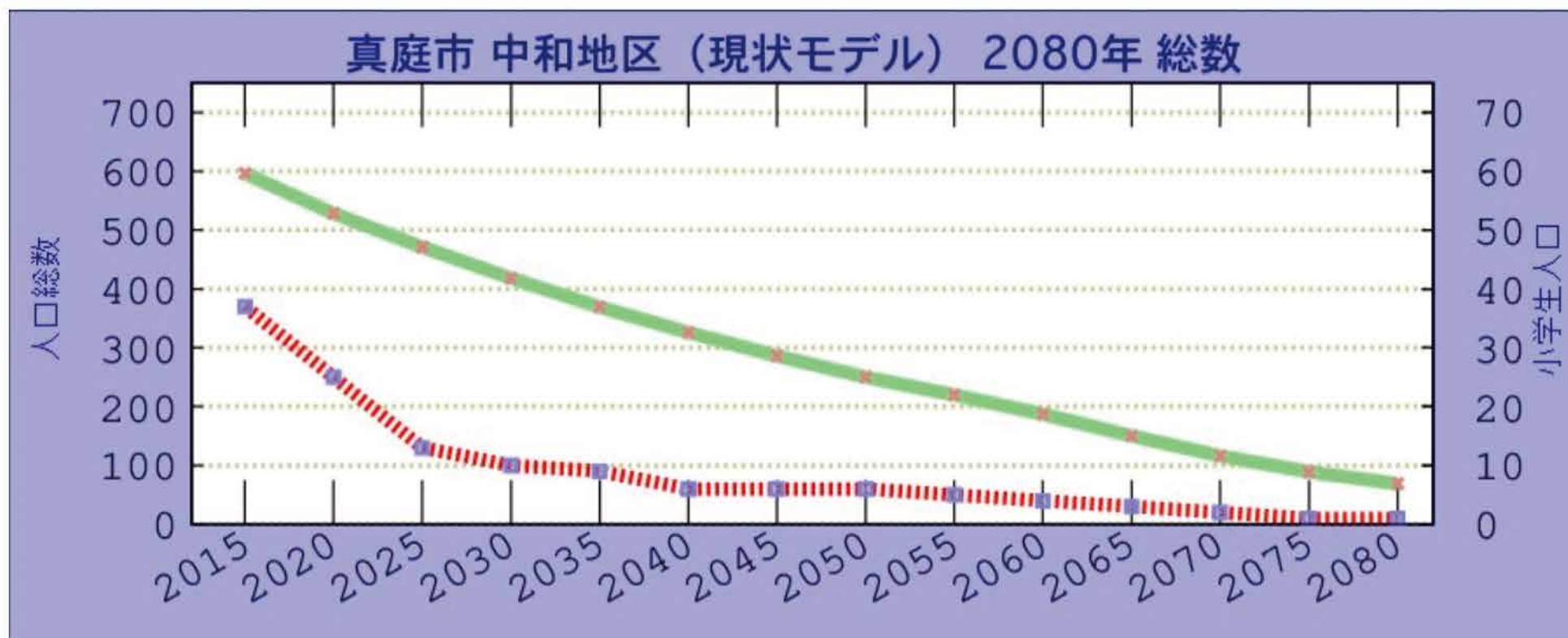
3世帯／年の子育て世代の移住で**100人規模の学校**

豊田市 敷島小学校区（移住モデル3）2060年 総数



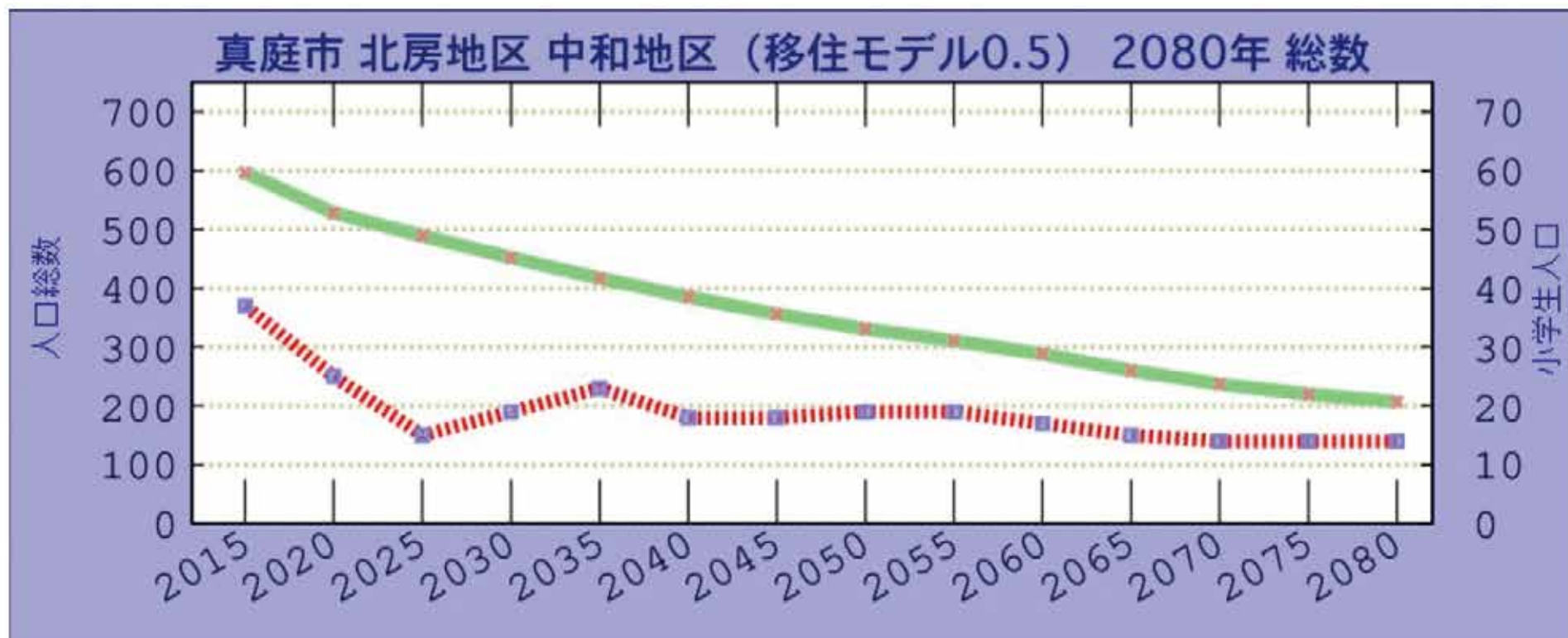
# 真庭市 中和地区

## 現状モデル



# 真庭市 中和地区

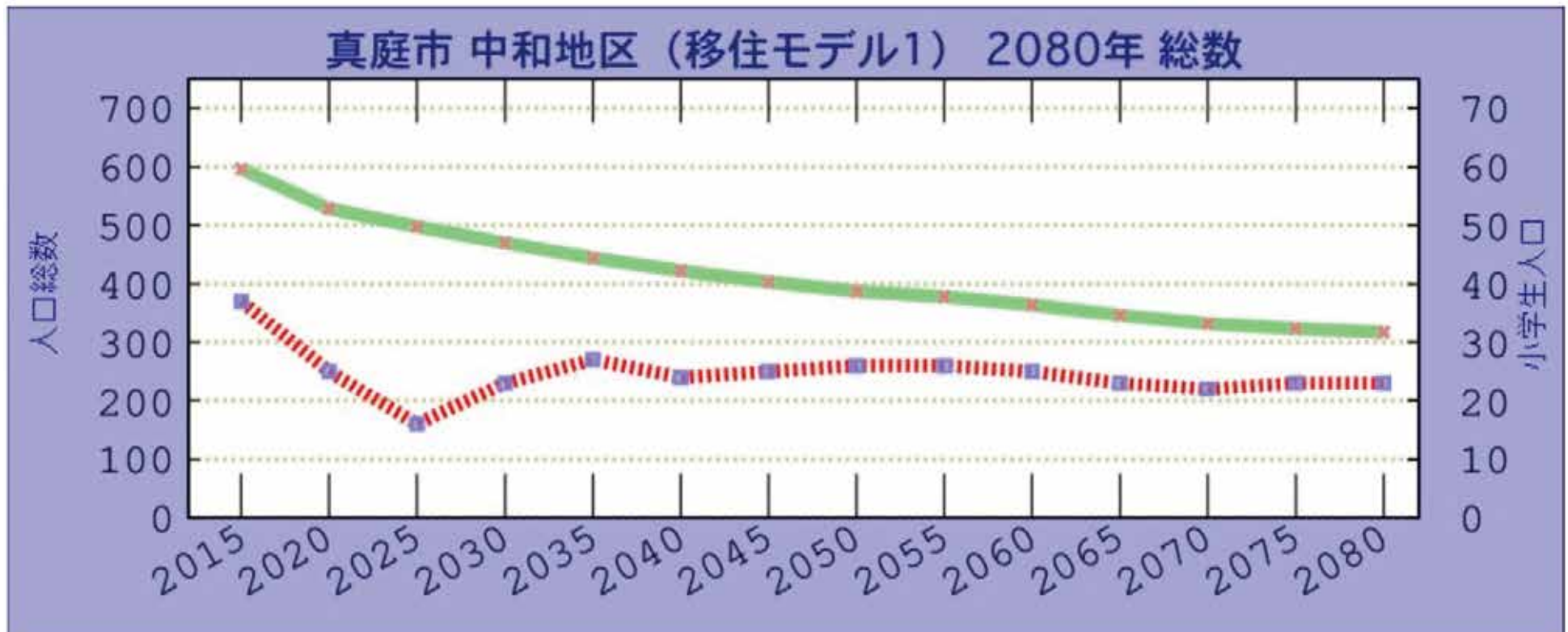
## 移住モデル0.5





# 真庭市 中和地区

## 移住モデル 1



10年後を展望し  
5年間の行動計画を定める

# 「しきしま♡ときめきプラン」



公開討論会

討論には、中学生やしきしまファンの都市部住民も参加

# しきしま 暮らしの作法

私たちは、しきしまを豊かな暮らしの場として

未来につなぐことを決意し、

しきしまを愛する全てのの人々を温かく迎え入れます。

ここに暮らしの作法十か条を定め、これを守ります。

第一条 家、田畑、山林は地域共有の風景と考えよう。

第二条 家の周りをきれいにして暮らそう。

第三条 空き家を放置するのはやめよう。

第四条 田畑や山林を荒らさず、生業の種を育てよう。

第五条 高齢者が生涯現役で暮らせるよう支えあおう。

第六条 子どもは地域の宝、よその子も大切に育てよう。

第七条 歴史や伝統文化を地域の誇りとして守ろう。

第八条 あいさつを励行し、安全安心な地域をつくらう。

第九条 自分でできないことは、みんなで助け合おう。

第十条 地域の未来のために何ができるか考え行動しよう。

令和二年三月 敷島自治区

移住者受入れは空き家活用が決め手

10年間の移住実績

40世帯 98人

空き家片付け  
大作戦



暮らしの参観日(空き家見学会)

「関係人口」が、山村地域の持続化を支える

年度の「交流人口」

延べ5,000人

さくら村「ガキ大将養成講座」



「こめっこクラブ」



福蔵寺 ご縁市

登山部 あさひ



スモールビジネスが地域の経済循環を生む

# 10年間毎年1事業以上のスモールビジネスが起業



「あさひ薪研」




農家民宿「ちんちゃん亭」



「ターン女子の菓子工房  
「杉ん工房」







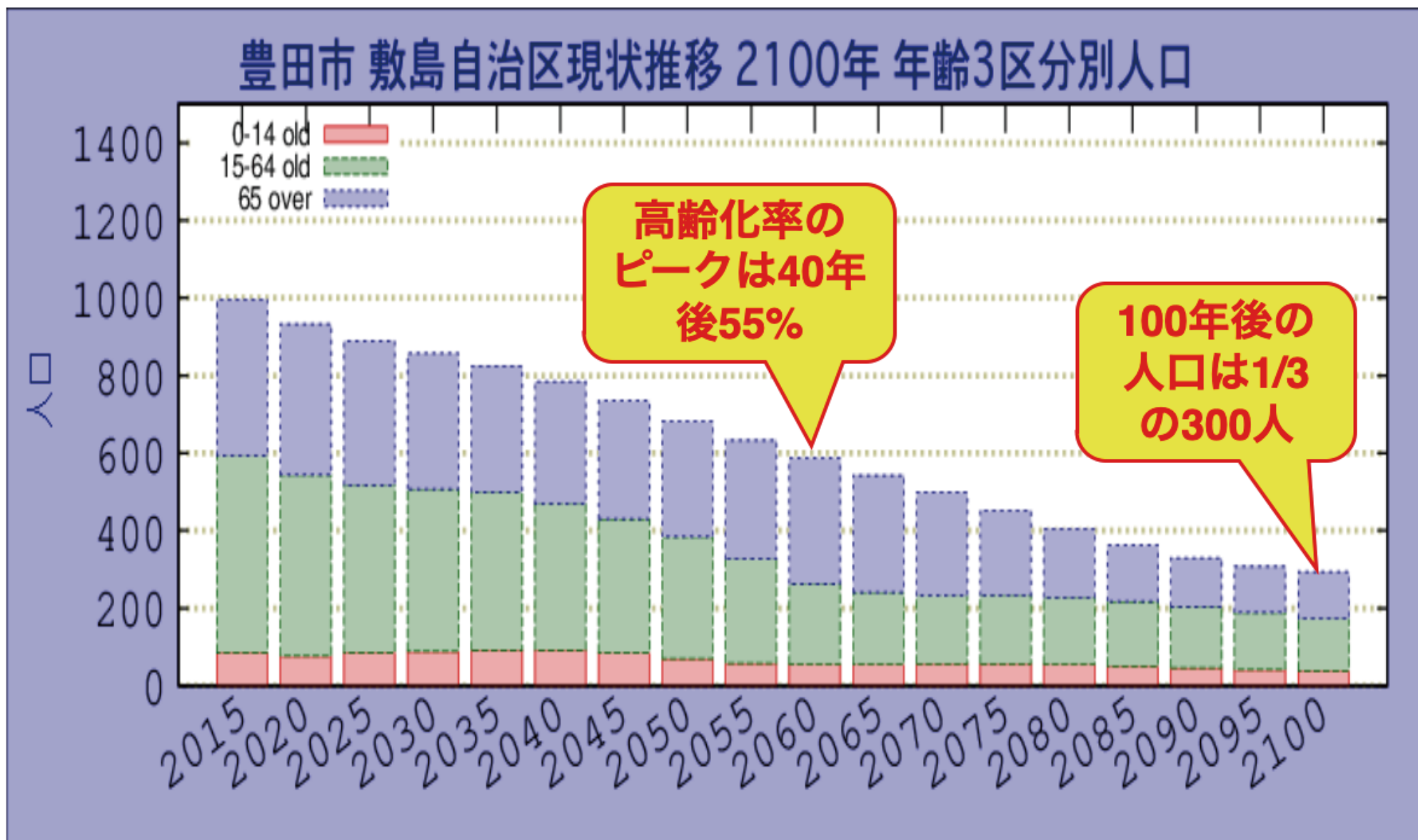
# 地域の絆が 都市とつながり 未来を拓く

～しきしまの家から始まる山村の未来～

**新たなフェーズ**

**「しきしま♡ときめきプラン2020」**

# 人口減少、高い高齢化率は100年続く



# これからの地域社会のあり方を考える視点

## 高度成長前

- 一次産業中心
- 自給自足
- 大家族
- 結・統制
- 自然エネルギー

家族・地域で支えあわ  
ないと生きられない  
共同体中心社会

## 高度成長～現在

- 二三次産業中心
- 市場・貨幣経済
- 核家族
- 自己責任・行政依存
- 化石エネルギー

自己責任・行政依存  
経済効率優先の  
自己責任社会

## 少数化社会 (人口減少・超高齢社会)

- 四五次産業中心
- 持続可能経済
- 個人
- 多様性・自由・包摂
- 再生可能エネルギー

多様な価値観を認め  
支え合う持続的な  
新・共同体中心社会

# 「しきしま♡ときめきプラン2020」 3つの重点プロジェクト

人口減少・超高齢社会を受け止めて前に進む!

## プロジェクト①

### 支え合い社会創造プロジェクト

誰もが「支える人」であり続け、無理のない持続的な有償ボランティアのシステム(現代の「結」)を創り上げる

## プロジェクト②

### 農村景観を守る農地保全プロジェクト

美しい農村の風景を次世代につなぐため、消費者とつながる農地保全(CSA農業)、集落営農組織化に取り組む

## プロジェクト③

### 未来への構造改革プロジェクト

人口減少・超高齢社会に合った自治区、町内会などに改め、関係人口と共に地域を自治する地域運営組織を立ち上げる

# プロジェクト①

## 支え合い社会創造プロジェクト

# しきしま支え合いシステムのイメージ

困っている人・世帯

- ・ひとり暮らしの高齢者
- ・高齢者のみの世帯
- ・子育て世帯
- ・その他助けが必要な人

みんなが  
「支える人」であり  
「支えられる人」！

④サービスの提供

- ・草刈り・大工
- ・買い物代行
- ・子どもの見守り
- ・電球交換
- ・庭畑の草取り
- ・パソコンやスマートフォンなどの機器説明

お手伝いができる人

- ・げんきな高齢者
- ・特別な技能を持つ人
- ・助産師など有資格者
- ・都市部の支援者など

①依頼

②見積り

⑤支払い

③依頼

⑥支払い

登録

事務局／マッチング・見積り・清算事務

2021年(令和3年) 9月11日(土)

発行 敷島自治区 支え合い社会創造  
プロジェクト (協力:MYパワー)

表面

# おかげさまで 『敷島自治区 困りごとアンケート』の 調査結果が出ました！

調査期間：2020年12月～2021年1月  
調査対象：敷島自治区内の中学生以上の方全員  
回収率：80.5% (746/927名)

※もし、日頃感じている「困っていること」「誰かにお手伝いしてほしいこと」「お手伝いできること」についてお聞きさせていただきます。あてはまる「○」を必ずおたはせてください。

困りごと項目	困っている		誰かにお手伝いしてほしい		お手伝いできる	
	必ず困っている	時々困っている	必ずお困りしたい	時々お困りしたい	必ずお手伝いできる	時々お手伝いできる
1.食料品・日用品等の買い物	0	0	0	0	0	0
2.車での作業やお車の修理	0	0	0	0	0	0
3.その他 質問 備考について	0	0	0	0	0	0
4.日々の家事づくり	0	0	0	0	0	0
5.日々の掃除やゴミ出し	0	0	0	0	0	0
6.高所作業や大型ゴミ出し等の力仕事	0	0	0	0	0	0

★★★★★ 主な特徴は、次の2つ ★★★★★

## ① 「お手伝いできる」「場合によってできる」の回答が多くありました！！

→自治区内の支え合いで、地域の困りごとが「ある程度」解決できそうです。特に **○○○○○** のあたり。



## ② 「世代・性別」で 「お困りしたい」ことが異なっています！

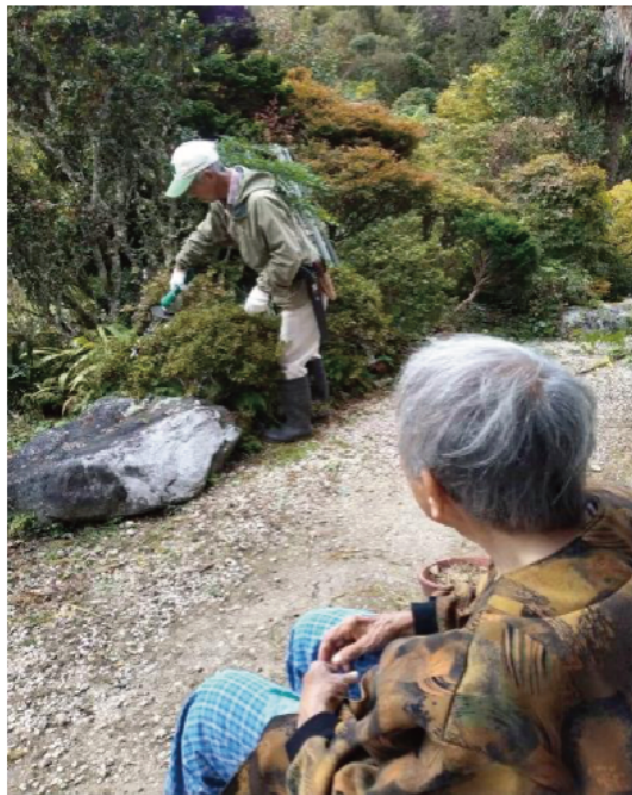
お困りしたいこと	1位	2位	3位
13～39才 (18%)	42. 子どもの遊び場	31. 運動できる場所や施設	34. 緊急時に医療が心配
40～69才 (47%)	16. 山の手入れ	15. 獣害	26. 地域活動のお役職がすぐ回ってくる
70才以上 (35%)	7. 機械や電気製品の修理	15. 獣害	6. 高所作業や大型ゴミ出し等の力仕事
男性 (48%)	26. 地域活動のお役職がすぐ回ってくる	16. 山の手入れ	15. 獣害
女性 (52%)	16. 山の手入れ	15. 獣害	13. 草刈り



取組み  
ピックアップ

# 支え合いマッチング100件

マッチングナンバー1は「草刈り」、その他「大工仕事」、「スマホの操作」、「剪定」、「農作業補助」など



高齢者の70%を占める「元気高齢者」の活躍が、地域の未来を変える。

## プロジェクト②

# 農村景観を守る 農地保全プロジェクト

## 3年間の話し合い・環境変化 を踏まえた新たな方向性

- ① 集落営農組織化は直ちには困難だ
- ② 共同活動ができない集落も出てきた
- ③ 「自給家族」をやりたいが、人材がいない

国の政策など  
の環境変化

- ・ 中山間直払いの加算制度が拡充された
- ・ 農村RMOを推進する支援制度の創設
- ・ 「地域計画」の策定が義務付けられた



しきしま全体の広域連携で農地を保全しよう

取組み  
ピックアップ

# 農村RMO実証事業も着々

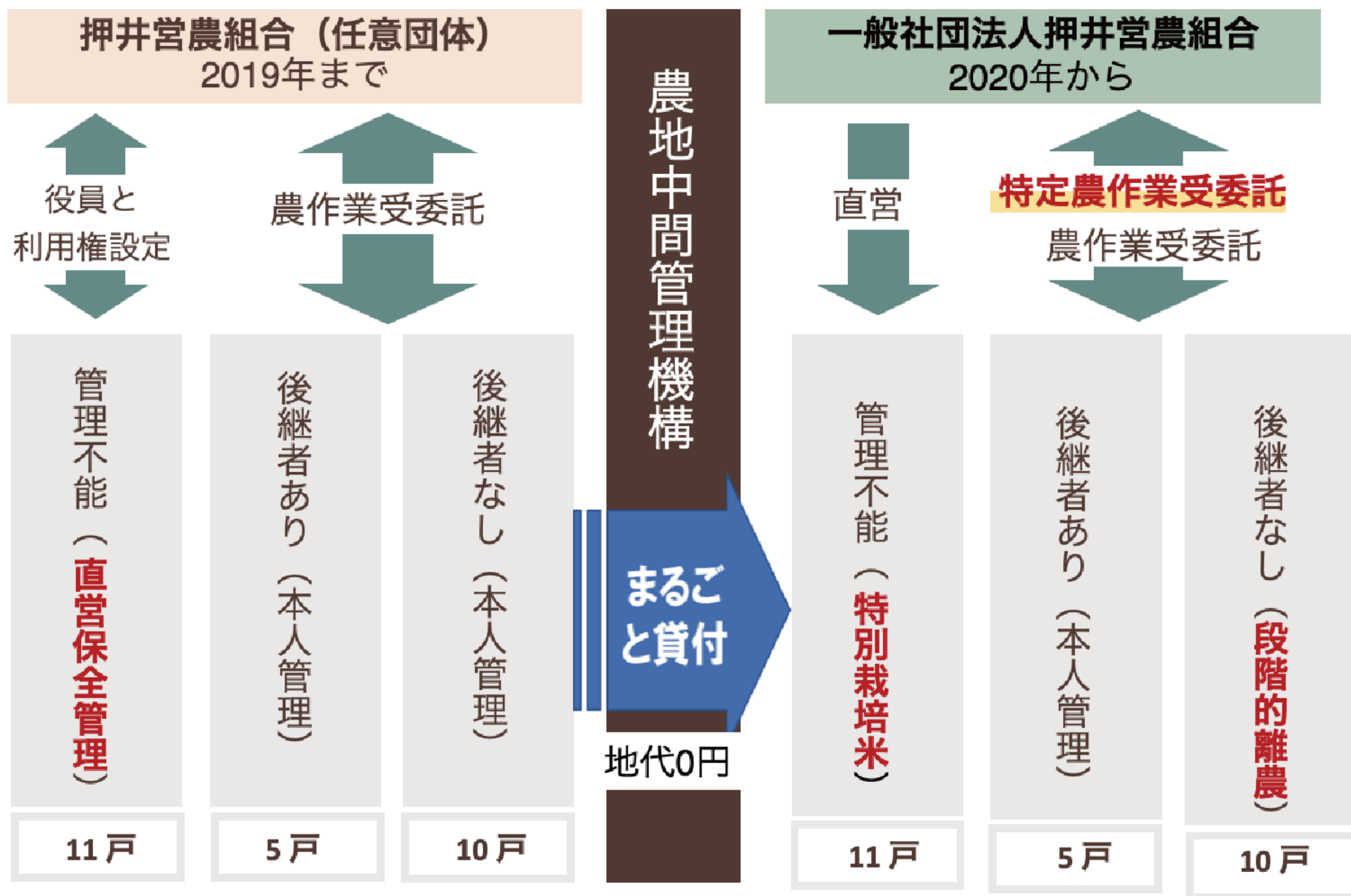
令和5年度から3年間の農村RMOモデル推進支援事業に採択されました。

草刈りロボットは、愛知工業大学との連携事業、農用地保全の切り札、しきしまの家「自給家族」の募集を開始しました。

農用地保全	「地域計画」実現化戦略計画
	草刈りロボット開発実証
	しきしまの家自給家族実証
地域資源活用	RMO拠点しきしまの家整備
	高齢者生産野菜配送加工実証
生活支援	支え合いシステム実証
	高齢者移動支援実証



# 「地域まるっと中間管理方式」 (押井集落の事例)



# しきしまの家・自給家族のコンセプト

生産者と消費者がつながって、双方が豊かになる

## しきしまの家 のメリット

- 農の営みが続き  
農地が守られる
- 集落が消滅の危機  
から救われる
- 「関係人口」が生まれ  
暮らしが楽しくなる



## 新しい家族 のメリット

- 安全で美味しいお米が  
確実に手に入る
- 地球や人に優しい  
消費に貢献できる
- 自然や人の温もりを感じ  
暮らしが楽しくなる

親戚の米を少し多めに作るようなもの

少し横着な「棚田オーナー」のようなもの

## プロジェクト③

# 未来への構造改革プロジェクト

# 拠点となる地域運営組織 「しきしまの家」

## 経営的手法で地域課題を解決する2階を増築

自治区の方針に基づき、経営的な観点や手法で具体的に事業を実施する。

方針

地域課題を協議、方針を定め行政と共働して実践する。

### 2階 しきしまの家（農村RMO）

支え合いプロジェクト事務局

農地保全プロジェクト事務局

しきしま活動団体プラットフォーム

関係人口とつながるテーマ別の活動団体、都市部企業等

### 1階 敷島自治区（任意団体）

定住促進部

環境保全部

福祉健康部

次世代育成部

安全安心部

広報部

分野横断重点プロジェクト推進チーム

町内会、農事組合など地縁的団体



# 今後の山村自治の新しい考え方

これまで

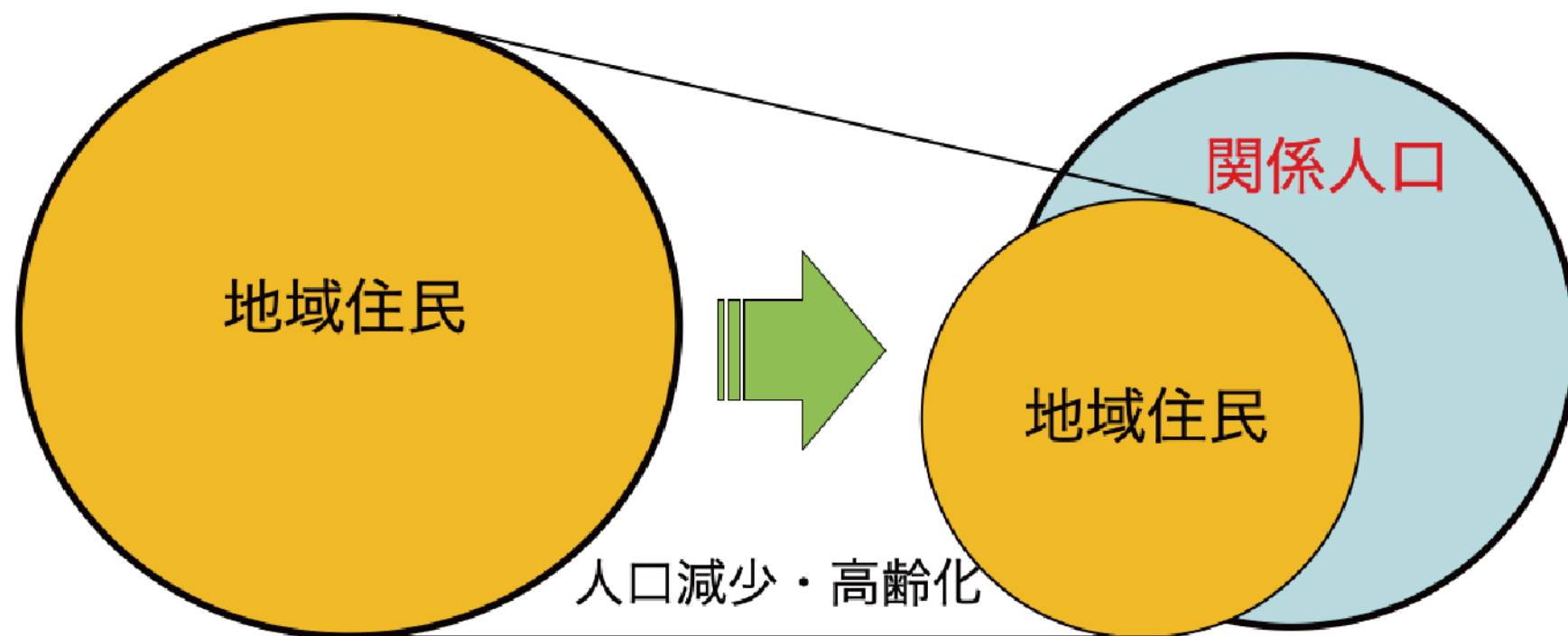
**地域自治 = 住民自治**

地域住民が主体性を持って自立し、地域課題を解決

これから

**地域自治 = 関係自治**

地域住民と関係人口が共に自治の主体となって地域課題を解決



関係人口：都市に居住しながら山村地域の課題解決に積極的に関わる人

# お披露目会に約200名の参加

2023年4月1日(土) 「しきしまの家」 暫定オープン



太田市長の挨拶

「しきしまの家は、必ずこれからの地域自治のモデルになる。」



# 「しきしまの家」から始まる 山村の未来

取組み  
ピックアップ

# しきしまの家グランドオープン



2024年4月、「我が家の居間のようなくつろぎ空間」をコンセプトにグランドオープン。食を共にすることで、地域の絆がさらに強まることを期待しています。



◀地域や企業  
にお弁当の  
配食も開始。

スタッフも▶  
拡充しました。



取組み  
ピックアップ

# 「ふらっと祭」は毎月大盛況

6月から毎月開催されるふらっと祭には200人が集まります。移動支援で普段出かけない高齢者も多数。人気ナンバー1メニューは、「台湾ラーメン」。



◀お年寄りから子どもまで大盛況

人気の台湾▶  
ラーメン



取組み  
ピックアップ  
アップ

# しきしまの家・自給家族2025年産目標

2023年産 140家族 210俵  
2024年産 200家族 300俵  
2025年産 300家族 450俵

項目	目標
保全農地	7.5ha
生産者米価	25,000円/俵
しきしまの家事務費	2,250,000円



出荷450俵

## 自給家族



押井含む7グループ



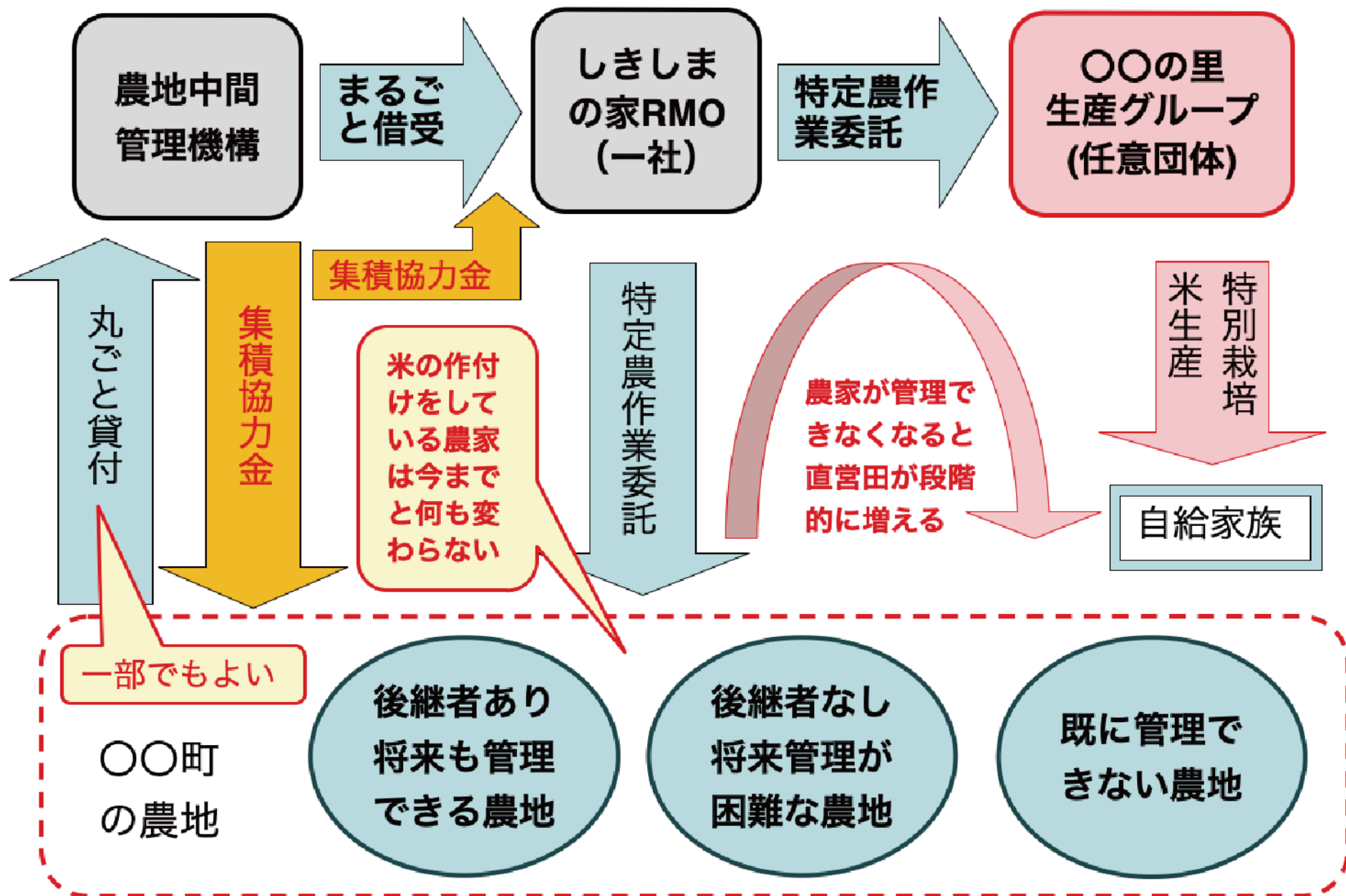
全体イベント1回/年

集落イベント1回以上/年



押井含む300世帯

# 「しきしまの家」農地保全システム（将来）



# 私たちが見つけた大切なこと

- ①人口減少・超高齢社会を受け止めて前へ進む
- ②「おたがいさま」の地域共生社会を取り戻す
- ③次世代が今より幸せに暮らせる地域を残す
- ④美しい農村景観を守ることが地域をつなぐ鍵
- ⑤都市部の関係人口を地域自治の主体に加える

そのために

みんなの心の拠り所となり、汗をかき、楽しく努力する場「しきしまの家」を生かす





しきしまの家

自給家族

**しきしまの家・自給家族を募集します**